

事務事業名	もおか木綿踊り支援事業			担当	産業環境部 商工観光課 観光係		
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり		電話番号	83-8135		
施策名	4	観光の振興		<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠					<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 昭和28年度~)		
予算科目	1. 一般会計	7. 商工費	1. 商工費	3. 観光費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~ 年度)		
事業概要	木綿踊りは、市民の郷土愛を深め、青少年にも健全なレクリエーションの場を提供することを目的としている補助金交付、実行委員会への出席、テント等物品借用、交通規制の対応やお知らせ版による広報等の支援をしている。 昭和28年の真岡町盆踊り大会から平成元年までは、輪踊りの瑞穂踊りを実施。平成2年から平成15年度までは流し踊りを実施した。 平成16年度から輪踊りが15年ぶりに復活した。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移						
28年度実績 ・補助金交付(申請~実績報告) ・もおか木綿踊り実行委員会会議出席		名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
29年度計画 28年度と同様		ア 補助金額	千円	3500	3500	3500	3500	3500
		イ 実行委員会会議日数	日	4	4	4	4	4
		ウ						
		エ						
		オ						
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 もおか木綿踊り実行委員会		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移						
		名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
		ア 実行委員数	人	30	29	29	29	29
		イ 参加団体数	組	40	40	37	30	30
		ウ						
		エ						
		オ						
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 地域の連帯感や地域活性化を図る。		⑦ 成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移						
		名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
		ア 参加者数	人	1,620	1,673	1,584	1,450	1450
		イ 観客数	人	43,000	40,000	35,000	32,000	32,000
		ウ						
		エ						
		オ						
④ 結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) もおか木綿踊りへ市民が参加し、見物してもらい、市民のもおか木綿踊りへの認識と理解を深めて観光の振興を図る。		⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移						
		名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
		ア 真岡市を訪れた観光客数	人	2,842,333	2,865,281	2,865,612	2,912,127	2,940,000
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500
	事業費計(A)	千円	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3
		延べ業務時間	時間	200	200	200	200	200
		人件費計(B)	千円	813	844	838	831	831
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,313	4,344	4,338	4,331	4,331	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か? いったいどんな経緯で開始されたのか?	市民の思い出の故郷としての郷土愛を深め、青少年にも健全なレクリエーションの場を提供するとともに、観光事業の面からも真岡市の認識と理解を深めるためにふるさと踊りが始まったので支援した。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	昭和28年:城山公園で輪踊りによる真岡町盆踊り大会始まる。(復活)昭和45年:観客、踊り手の増加に伴い、安全対策として会場を真岡小学校に移す。昭和53年:校庭使用の問題で真岡市民公園に会場を移す。平成元年:踊り手、観客の減少により、盆踊り検討委員会を開催。流し踊り決定。平成2年:商店街を会場とした流し踊りによる第1回もおか木綿ふるさと踊り開催。平成16年:市制50周年記念事業として、櫓を新築し輪踊りが復活。平成19年:もおか木綿踊りに名称を変更、踊りの内容も従来の瑞穂踊りに加え、真岡音頭を取り入れるとともに創作踊りの時間帯を充実した。併せて、クラブツーリズムの誘致をし、団体客の誘致を図った。平成20年より真岡音頭を取り入れるとともに創作踊りの時間帯を充実したが雷雨等により、思ったより来場者が伸びなかった。櫓の経費で補助金の大部分を使い、変化もないことから、内容、場所、時期等の検討がなされた。平成22年度から場所を市街地の荒町本通りに移し、流し踊りを復活させるとともに、創作踊りを2ヶ所で行う形で、開催時期を8月末に変更し1日だけの開催としたところ2万人の来場者で賑わった。 補助金の推移としては、平成2年から平成15年度までは400万円、平成16年度は市制50周年として櫓の新規製作費を含めて1000万円を支援した。平成17年度から平成21年度までの補助金は600万円。もおか木綿踊りに名称を変更、踊りの内容も従来の瑞穂踊りに加え、真岡音頭を取り入れるとともに創作踊りの時間帯を充実させた。平成22年度に、内容、場所、時期等の検討がなされ、場所を市街地の荒町本通りに移し、流し踊りを復活させ、創作踊りを2ヶ所で行い、開催時期を8月下旬に変更し、1日だけの開催としている。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	企業等からのスポンサー収入が、景気低迷により厳しい状況にある。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 郷土を愛する心、観光の振興を図っており、市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 地域の連帯感や、地域の活性化に繋がり、市が関与することは妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 実行委員会のスムーズな運営により、地域の連帯感や、地域の活性化に繋がり適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 平成22年度に荒町本通りに場所を移し、流し踊りとして開催し賑わいをみせたので、流し踊りとして一定の成果があり、向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 事業の運営存続ができなくなるため影響がある
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 会場設営費に係わる必要最低限の補助金であり、削減できない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 会議出席及び補助金交付事務等の必要最低限の人件費であり、削減できない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある スポンサー収入の確保に努めながら実施しているため公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							